

事業報告書

【“ジブンらしい”を再発見するオンライン講座 with 東村のみなさん】

配信日時	令和4年3月9日（水）9：00 ～ 23日（水）17：00
目的	男女共同参画社会づくりに関する啓発講座の受講機会に限られる東村民を対象に、専門家によるジェンダーについての講座を通して、ジェンダーの視点に気が付き、主体的にあらゆる住民が生きやすい社会づくりを目指すことを促し、地域の男女共同参画社会推進に寄与することを目的とする。
対象	東村にお住まいの方・おつとめの方（性別年齢問わず）・関心のある方
主催	沖縄県・公益財団法人おきなわ女性財団
共催	東村・東村教育委員会
講師等	ご挨拶： 上與那原 美和子（おきなわ女性財団 常務理事） 當山 全伸 氏（東村 村長） 講話： 新垣 誠 氏（沖縄キリスト教学院大学 人文学部長）
開催方式	YouTube（録画動画配信）
定員	なし（申込者数：34名）
再生回数	64回
講演内容（概要）	<p>（1）ご挨拶：當山 全伸 氏（東村 村長）</p> <p>当講座は、東村および東村教育委員会から共催をいただいた。おきなわ女性財団 常務理事・上與那原の挨拶に続いて、東村村長・當山氏よりご挨拶があった。當山氏は、東村役場における職員数とその男女比率を紹介し、職員に占める女性比率はやや少ないものの、今後の女性の活躍が期待されるとし、村としては管理職における女性の登用の促進や、『配偶者の出産に伴う育児休暇取得 100%』を目標として掲げていることを述べた。また、東村立東中学校では、生徒の要望から制服に関する校則の見直しが行われ、制服選択制が導入されたこと、子育て支援センターの設置、包括支援センターによる高齢者支援の強化など、各世代において最適な行政サービスを提供していることなどを紹介し、多様な価値観や背景を持つ人々が互いに尊重し合う環境作りに向け日々取り組みが進んでいるとした。最後に、本講座が村民の男女共同参画の理解や相互理解の機会となるようにと、受講者へ向けてメッセージを送った。</p> <p>（2）講演「ジェンダーを考える教室」</p> <p>講師：新垣 誠 氏（沖縄キリスト教学院大学 人文学部長）</p> <p>【趣旨】</p> <p>講話では、私たちが持っている「男らしさ・女らしさ」といった「ジェンダー意識」に焦点をあて、ジェンダー意識とそこから作られた社会のルールである「ジェンダー規範」が日本国内で形成された歴史を振り返り、現在を生きる私たち一人ひとりがより自分らしく生きるため、まず個々がどのようなジェンダー意識・規範を持っているのかに気が付き、ジェンダー規範から自由になることが大事であるとユーモアを交えながら話した。</p> <p>【詳細】</p> <p>新垣氏は、ジェンダーの視点から社会規範を考えていくことを通じ、私たちの自分らしさを再発見するヒントを掴みましょうと冒頭メッセージを述べた。</p> <p>まず、人は生まれた瞬間から医学的に「男女」と分類され、社会から「男・女らしさ」が与えられ、社会が作り出す男・女らしさを「ジェンダー」という（例：男の子はブルー、女の子はピンクという色分けなど）。「男・女らしさ」など性別にまつわる私たちの意識を「ジェンダー意識」といい、男女の特性にまつわる常識のようなものであると解説。私たちのもつジェンダー意識について簡易的にチェックを行った。単語から連想される性別をチェックし、自身のジェンダー意識と社会の通念「男は仕事、女は家庭」というものが見えてきたところで、ジェンダー意識は社会の中で身体化・無意識化され、これを振り切るのは難しい、と新垣氏は述べた。どのようなジェンダー意識が自分に染みついているのか、これを意識化することから、ジェンダー規範からの解放が始まるとした。さらに、「男は～であるべき、女は～であるべき」という意識は、「ジェンダー規範」というが、これは周囲から強制される圧力や価値観であり、社会からのプレッシャーとなる事が多く、個人</p>

を苦しめる要因であるとした。

ジェンダー規範は、日本の伝統でもなく沖縄独特の昔からの決まりというわけでもないとし、近代国家日本の成立から発生し、明治以降に教育の中で形成・強化された価値観であったと話した。戦後教育は見直されたが、現在の教育がジェンダー規範から自由なのかと言われれば、「隠れたカリキュラム」が依然として残る（例：6年間の全員スカート制、女子マネージャー、男女別名簿など）と述べ、学校だけでなく職場では女性の職場における不平等感「雑務」「人事配置」などに、ジェンダー規範が見られ、ジェンダーの視点から職場環境の見直しも必要であると述べた。

また、ジェンダーのことを考えるとき、女性が被抑圧者としてフォーカスされがちだが、男性もジェンダー規範による縛りを抱え影響を受けていると指摘。「男は仕事ができなんぼ」という規範の中で、社会状況の変化から仕事でつまずいた中高年男性の自殺が多発した時代もあったことを紹介、男性はジェンダー規範が命と直結していて、独特の重さがあると説明した。今の時代、ジェンダー規範は男も女も苦しめるとし、夫婦・カップル間において大事なことは対等な関係でお互いを尊敬する、ジェンダー規範にも執着しない、性別ではなくて個性を大事にすることであると述べた。そして、ジェンダー規範から自由になることが、自分らしさの再発見になるのではないかと話した。

最後に新垣氏は、「ユニバーサルデザイン」の考え方が自治体に求められているとし、女性のまちづくりへの参加を提言した。また、地域の活気や繋がり（防災・防犯など）という観点からも、自治会や婦人会などが旧態依然ではなく若い人たちが参加しやすい組織への変化が求められると指摘。県内で過疎化しない、若い世代に選ばれる自治体として、女性や様々な人たちが自分らしくいられる地域が選ばれていることを紹介し、東村もぜひ多くの人々に選ばれて活気にあふれる町になっていただきたいと結んだ。

参加者の声

- 昔は男女共同が自然とできていて、後になって男らしさ、女らしさのイメージが作られたということを知りました。ジェンダーチェックの場面で、自分も知らず知らずにその意識の中にあるなと感じました。
- 生まれた瞬間からジェンダーに縛られた生き方、育てられ方が無意識として刷り込まれているのだと理解することができた。
- 難しい話についていけるか心配でしたが身近なところに問題があることやデータなどの説明などわかりやすく納得できました。男性のためにもジェンダー平等が必要だと知り男性にも是非講座に参加して欲しいと思いますので次回を楽しみにしています。
- 自分らしさを考えるというテーマは重たい内容なのかなと思っていましたが、話が軽快で、聞き入ることができました。今後は近くにあるジェンダー意識に興味を持ち、そのことが相手にとって快適または不快なことなのかを考え、行動していきたいです。
- とても分かりやすく解説していただき、1時間があっという間に過ぎました。次回を楽しみにしています。
- とても分かりやすかったです。ありがとうございます。ジェンダーについて、もっと勉強したくなりました。出来れば今後もオンライン等で、講座を開催して頂けると幸いです。
(一部抜粋)

写真



●オンライン タイトル画面



●ご挨拶（おきなわ女性財団 常務理事 上與那原 美和子）



●ご挨拶（東村村長：當山 全伸 氏）



●講話の様子（講師：新垣 誠 氏）